

①・退職のご挨拶

②・名大病院臨床研修医のご紹介

・新任のご挨拶

・教えて！この言葉「HPV ワクチン」

・名大病院から沖縄の病院へ看護師を2名を派遣しました

・ナディック通信

・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い

・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111（代表）

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます

特集
TOPICS ①

退職のご挨拶

老年内科長／教授
葛谷 雅文

この3月で名大病院を定年退職いたします。在職中は公私ともども一方ならぬご懇情を賜り厚くお礼申し上げます。私はこの名大病院における高齢者医療（老年内科）に40年近く関わらせていただきました。私が診察させていただく多くの患者さんは私にとっては年齢的にも人生の大先輩であり、医療以外にも多くのことを学ばせていただいた気がします。私も65歳になり、やっと高齢者の仲間入りが出来ました。今後自分なりの「高齢者の高齢者による高齢者のための医療」に少しワクワクしています。

精神科長／親と子どもの
心療科長／教授
尾崎 紀夫

平成15年から精神科・親と子どもの心療科科長、平成22年から遺伝力カウンセリング室長、平成30年からはゲノム医療センター長として、当院の患者さん、ご家族に教えられ、職員の方々に助けられて、診療して参りましたが、本年度をもって今の職を辞することとなりました。診療科長として19年間取り組んで参りましたのは、如何に他の診療科・部門の方々と連携して、より良い診療体制を作るかでした。例えば、妊産婦の方々ががん患者さん、移植患者さんのメンタル面でのサポートにおける連携体制（リエゾン精神医学と言います）の構築です。それはまた遺伝力カウンセリング室／ゲノム医療センターの役割、「ゲノム医療と、関連部門・診療科、患者さんとそのご家族を繋ぐ」も同様でした。最後になりますが、これまで色々御世話になりました皆様に心から御礼申し上げ、私の挨拶に代えさせていただきます。

心臓外科長／教授
碓氷 章彦

私は平成8年から26年間名古屋大学にお世話になりました。学生、大学院生を合わせると36年間、人生の1/2以上となります。永きにわたりご指導頂きましたこと皆様に感謝申し上げます。平成24年に心臓外科教授に就任し、心臓移植の実施と小児心臓外科治療の再開を目標に尽力いたしました。心臓移植は平成25年9月にVAD治療を開始し、平成29年4月に心臓移植治療を成功させることができました。現在、重症心不全治療センターを基盤にVAD治療72例、心臓移植を10例に行っています。小児心臓外科診療は、ようやく小児循環器センター開設が叶いました。櫻井病院教授、大橋病院准教授が選任され、始動いたします。両診療とも皆様のご支援が必要です。今後ともよろしくお願いいたします。

事務部／部長
永家 清考

この度、令和4年3月31日をもって名古屋大学を退職いたします。平成22年4月1日に管理監督職員（課長職）を拝命し、次長職・部長職を含め12年の長きにわたり務めさせていただきました。名古屋大学での勤務は概ね40年となりますが、その大半は医学系研究科及び病院で勤務させていただき、様々な経験をさせていただきましたことが自分自身を支える大きな財産となっています。2年前から発生したコロナ禍により病院運営は厳しい現状にありますが、きっと医学系研究科・病院はこの困難な状況から回復し運営状況も好転に転じると信じております。事務部の皆さんはもとより、医学系研究科・病院の教職員、多くの方々のご指導、ご支援をいただき、そのおかげで無事退職することができたものと心から感謝しています。本当にありがとうございました。

手の外科長／教授
平田 仁

令和3年度をもって人間拡張・手の外科学教授を退任いたします。診療・教育・研究と二足ならぬ三足の草鞋を履く医学部教授の職は私の能力を超えた困難なものであり、在職中は多くの皆さんに支えていただきました。長年のご厚情に心より感謝申し上げます。高度に発達した「手」は人類最大の特徴であり、道具を作り身体機能を拡張することでヒトは動物界の頂点に君臨するに至りました。ヒトにとって手は単なるマニピュレーターではなく、思考を助け、感情を豊かに表現する役割も担います。手に支障を来すと忽ちヒトは苦境に陥ります。手外科の役割は機能の再建であり、手外科には整形外科・形成外科・血管外科・神経外科の要素が含まれます。私共は全国で唯一の手外科に特化した講座であり、15年半に亘る在任期間を通して有能な若手とともに新たな機能再建外科の開発に邁進して参りました。幸い優れた後進も多く育ちましたので安心してバトンを渡したいと思っています。

血管外科長／教授
古森 公浩

平成14年4月教授就任以来の20年間で血管外科領域の医療の進歩は著しく、血管内治療へのパラダイムシフトが起こりました。拡張性疾患（動脈瘤）に対しては平成19年腹部大動脈ステントグラフト内挿術（EVAR）が、平成21年には胸部大動脈ステントグラフト内挿術（TEVAR）が保険収載され、また閉塞性疾患に対しても血管内治療の占める役割は増加し、適応の拡大とともに治療総数は増加しました。下肢静脈瘤に対しては硬化療法および高位結紮術、ストリッピング手術に加え、平成23年から保険適応となったレーザー治療を導入しました。教室ではステントグラフトをいち早く導入し、治療総数や治療内容においても国内でも有数の診療科として評価されており、日本の血管外科学をリードする教室の一つであると自負しています。長い間お世話になり有難うございました。血管外科教室を今後ともよろしく願ひ申し上げます。

